

稲作の基礎について III

J A 福岡市東部 営農生活課

① レンゲについて

稲刈り直前や稲刈後にレンゲの播種を行われる方もおられると思います。

しかしながら、レンゲを播種した翌年に稲が倒れると言われる方もおられます。

それは、レンゲが繁っていた翌年も例年通りの肥料を投入した結果、倒伏したのではないのでしょうか？

レンゲを播種された場合、出来る事であれば鋤きこむ前に1㎡のレンゲを刈っていただき、減肥可能な量を計算していただきたいと思います。

式：窒素無機化量(kg/10a)=生育量(kg/10a)×0.34%(換算係数) ←開花後

レンゲが4割程度地面を覆っている場合、だいたい500g程度の生草重であり、1㎡当たり500gの重さであった場合、 $500g \times 1,000m^2$ (1反) $\times 0.34\% = 1.7kg$ の窒素量となり、尿硫磷48号で換算すると約10kg程度減肥出来る事になります。

足の踏み場も無い程繁っている場合には、1kg近くあると思われまますので、その場合 $1,000g \times 1,000m^2 \times 0.34\% = 3.4kg$ の窒素量が減らせる事となりますので、元肥は要らないという判断も可能になります。

② 出穂期のおおよその目安について

約40日前：止め葉より下5枚目の葉が抽出

(↑それまで出ている葉よりも一段高くなる葉。植付本数分だけ出てくる)

約30日前：止め葉より下3枚目の葉が抽出

(↑最終的に一番高くなる葉)

約24日前：止め葉より下2枚目の葉が抽出

約18日前：止め葉抽出

③出穂から稲刈りまでの予想並びに諸条件について

毎年、稲作だよりにて予想収穫期を掲載しておりますが、基本的には下表の積算温度とその年の状況+今後の気温予想を基に検討しております。

例えば、一日の平均気温が20℃・23℃・27℃…の場合、20+23+27=70℃となります。これを毎日繰り返す事によって、いつ頃がおおよその時期なのかを割り出しています。

籾水分でもおおよその収穫適期を知る事が出来ますので、水分計をお持ちの方は下表を参考に収穫をお願い致します。

出穂後積算気温による収穫適期(℃)

	早限	晩限	適期
夢つくし	850	1,050	950
ヒノヒカリ	900	1,050	950
元気つくし	900	1,050	950
モチ	930	1,100	1,000

籾水分から見た収穫適期(%)

	早限	晩限	最適水分
夢つくし	28%	24%	26%
ヒノヒカリ	28%	22%	25%
元気つくし	28%	23%	25%
ヒヨクモチ	28%	22%	25%

また、出穂期からの天気は非常に重要で、昨年のような台風が出穂後1～6日の間に影響を受けると、倒伏はあまり無いのですが穂や籾がすれる事や稲の葉の裂傷による光合成能力の低下から登熟歩合が低下し、小米が増え酷い時には4割程度の減収になる事があります。

同じように出穂10日後に被害を受けた場合、多い時には1割程度の減収に繋がる事があります。

出穂後には、台風のみではなく気温や日照の影響も色濃く受けます。

出穂後20日間の平均気温が高く27℃を超える日が多いような場合、乳白米や心白米が発生する可能性が高くなりますし、出穂後40日間の日照時間が210時間を下回る場合には、登熟不足による減収（不作）傾向であると考えられます。

逆に、出穂後40日間の日照時間が280時間を超える場合には登熟が良くなり、豊作傾向にあると考えられます。

番外 ジャンボタニシ概論

代かき等で平らに出来ればよいのですが、難しいですよね…

という事で、ジャンボタニシの生態をおさらいしましょう。

産卵：繁殖の期間は4～10月頃で、2～3日おきに数百の卵を産みます。

年間で言うと、2,000～8,000の卵を産みます。

卵の塊を水中に落とすと、孵化出来ずに死滅します。

成長：卵からタニシとして出てくるまでの期間は、25℃で約2週間です

その後、2ヶ月あれば2.5～3cmぐらいまで大きくなります。

1週間毎に卵の塊を水中に落とすと個体数を減らす効果があります。

環境：環境への適応力は高く、乾燥には非常に強い性質を持ちます。

水温が15～35℃の間は活発に動き、水温が高い程食べる量が増えますが、寒さには弱く、14℃以下では活動を停止しますし、-3℃以下では死ぬ個体が増えます。

稲刈り後に耕起を行い、厳寒期にもう一度耕起を行う事は寒さに当てるだけでなく、ロータリーでタニシを割る(傷ついたタニシも死にます)事によって個体数を減らす効果があります。

タニシ対策をメインとする場合には、トラクターの速度は遅く、ロータリーの回転は速くする事で効果が上がります。

被害：株の下からよじ登り、自らの重さで葉を垂らし、先端部分から食べます。

硬い作物はあまり好きではなく、田植後約2週間経過した稲はあまり食べません。また、稲は欠株を補う力を持っているので多少の欠株には目をつぶっても大丈夫です。あまり神経質にならないようにしましょう。

対策：昔から知られているように、タニシの背中が出るような浅水管理が出来ればあまり被害は出ません。田面の低い所に、タニシが食べる物や駆除剤を入れておく事で被害が軽減出来ます。

タケノコやカステラ、じゃがいも、酒粕だんご…様々な物を旺盛に食べます。その辺りは、皆様の方がお詳しいと思いますが…。

駆除：ジャンボタニシに使用出来る農薬として、以前は、キタジンPやパダン粒剤を用いて食害防止していましたが、現在当JA管内で使用している農薬は1週間程度、動きを止める除草剤『**ショウリョクジャンボ**』

化学成分で殺貝する『**スクミノン**』

スクミノンより多少殺貝効果は劣るものの食害防止という効果ではスクミノン同等の効果を示す『**スクミンベイト3**』です。

稀に『椿油粕』や『硫酸銅』という声も聞かれますが、水質汚濁物質ですし、基本的に水稻に対する農薬登録が無い為、農薬取締法違反となり【3年以下の懲役もしくは100万円以下の罰金】となりますので、絶対に使用しないで下さい。

もともとは、いなかったジャンボタニシですので、根絶を考えてある方もおられると思います。水系全体で取り組むのであれば、根絶も可能かもしれませんが現実的ではありません。それに、根絶やしにしてしまうと田面の高い所に、後から生えてきた草はどうなるのでしょうか？

稲を食われるのは最初の2週間ぐらいのものです。

その間を乗り越えて、その後の雑草管理はジャンボタニシにまかせましょう!!